

OUJ神奈川学習センター ふゆだより

通巻第53号

2013年1月22日発行

発行:放送大学神奈川学習センター

〒232-0061 横浜市南区大岡2-31-1

tel:045-710-1910 fax:045-710-1914



「鼻欠地蔵」を見学する神奈川学習センターウォーキングの一行（2ページに関連記事）

目次	朝比奈切通しから偲ばれる鎌倉時代、そして横浜で感じる新たな活力 「金沢・六浦津から朝夷奈切通を抜け、鎌倉へ」ウォーキング企画者舞台	2～ 3
	客員教授・ゼミ紹介(証券投資と私／「つまらないものですが」を 英語で言うと／『田中 則仁 先生』ゼミ【国際経営を考える】)	4～ 5
	面接授業紹介 「日本のことばの教育」 「臨床心理学ワーク」	6～ 7
	新炭焼き法の提案～震災瓦礫、再資源化への取り組み～	8～ 9
	放送大学神奈川学習センターと県央8市との公開学習会	10
	AAOUボランティアに参加して	11
	中世の図書館史から情報伝達について思うこと	12
	Kーサポートからのお知らせ／そのほかのお知らせ	13
	学生サークルからのお知らせ／神奈川同窓会だより	14～15
	学習センターからのお知らせ	16

神奈川(あまごころ)



朝比奈切通しから偲ばれる鎌倉時代、そして横浜で感じる新たな活力 原田 芳幸

小生の人生(50数年間)は、10数回の転勤転居の人生で、北は秋田から南は沖縄まで移り住んで47都道府県全てに足を踏み入れて、まるで芭蕉の不易流行の旅のような人生でしたが、5年前にやっと心落ち着けられるとの思いで横浜市(神奈川区)に終の棲家を構え、横浜の良さを探し求めての昨今です。そんな中で幸運にも藤田代表から真心のご案内を頂き、妻も含め過去2回(20年「横浜開港南区150人ウォーキング」、23年「金沢文庫・八景を歩

く!」)参加させて頂き、今回3回目参加させて頂きました。当日は、9時40分頃金沢八景駅を出発し、



朝比奈切通しをとおり、鎌倉に貫けて、夕暮れ時(16時頃)に鎌倉駅に到着するという徒歩2万数千歩のコースで、“1日よく歩いたもんだ!”との思いと共に、島田班長さんの素晴らしい名ガイドにより、金沢八景と鎌倉の風情と歴史に浸りながらの新たな発見の旅でありました。



特に感動したことは、街の喧騒から離れた静寂な朝比奈切通しを直(じか)に歩き、まさに鎌倉時代にタイムスリップしたような感覚でした。朝比奈切通しは、鎌倉七口の一つで鎌倉の中心から現在の横浜市金沢地区方面へぬける道(金沢道あるいは

六浦道という)の峠にある切通しで、軍事的にも経済的にも重要視され、物質流通ルートとして六浦の製塩場で作られた塩が鎌倉へ運ばれた様子、六浦は貿易港で、房総方面からの食料や生産物質の運搬は鎌倉幕府にとっては欠かせないものであった様子が、そしてまさに、「いざ 鎌倉」の場面で多くの武士が人生を懸けて馬で切通しを駆けていく様子が、名ガイドを聞きながら、目に浮かぶようでした。



また、切通しを通り貫けて鎌倉に入り、鎌倉駅に向かっている途中には多くの神社仏閣が立ち並び、鶴岡八幡宮本堂から鎌倉市街を見渡すと、鎌倉幕府が武家政権として成立していった鎌倉時代の様子が思い浮かぶようでした。

かつて、旅と共に歩んできた全国行脚の人生が、横浜で落ち着き馴染みを感じながら、ウォーキングを通しての新たな出会いと発見が、一重深い自身の世界に入ることができたようで、新たな力、糧となっていくことを感じます。横浜の地で湧き出ずる活力をもらい、新たなエネルギーとなり生きる意欲につながって行くことを感じております。

六浦道という)の峠にある切通しで、軍事的にも経済的にも重要視され、物質流通ルートとして六浦の製塩場で作られた塩が鎌倉へ運ばれた様子、六浦は貿易港で、房総方面からの食料や生産物質の運搬は鎌倉幕府にとっては欠かせないものであった様子が、そしてまさに、「いざ 鎌倉」の場面で多くの武士が人生を懸けて馬で切通しを駆けていく様子が、名ガイドを聞きながら、目に浮かぶようでした。

Kーサポート地域連携チームリーダー 藤田 緑

「金沢・六浦津から朝比奈切通を抜け、鎌倉へ」ウォーキング企画者舞台裏

今年度で地域連携チームのウォーキング企画は5回目を迎えます。新たな取り組みとして①学長への参加呼びかけ、②事前学習として、放送授業「日本古代中世史」の本郷先生の講演会、③「大学の窓」へ出演依頼、④事後学習として植物生態学がご専門の藤原先生の講演会を計画し、皆様のご協力・ご支

援のおかげで実施できました。

1～3回目のウォーキングでは南区から川沿いに横浜港方面へ向かいました



が、今年度は「いざ鎌倉へ」シリーズ2回目で金沢・
むつらのつ

六浦津から朝夷奈切通を抜け、鎌倉へ入る事としました。鎌倉・室町時代中頃まで、繁栄した六浦津・現在の平潟湾から出発し、塩の道またの名を六浦道、鎌倉道、金沢道とも呼ばれた古道の痕跡をたどり、明王院までウォーキングし流れ解散としました。

テーマは「中世に鎌倉の生活や文化を支え繁栄した六浦津・町・流通の様子を探る」とし、学習や下見ウォーキングを行い、初めてカラー印刷の参加者用資料を作成しました。コースは浄妙寺まで10kmの



企画でしたが、朝夷奈切通は足場が悪く、ゆっくり下りることとし、明王院までの約7kmにしました。歴史のご案内を中心にいたしましたが、豊かな自然を

感じながら山や川、草花を観察するなど、自然を堪能できるコースであったかと思います。

今年度は96名が参加し、学生と一般の方との比率はちょうど1:1で地域連携の点から理想的でした。鎌倉は外で適度に飲食できる場所がなく、恒例の完歩打ち上げはできず、交流という点から見ると今一つの部分が残りました。

アンケートでは「楽しかった、来年も参加したい」などの評価とともに、「トイレや参加者間の交流、100名規模」への提案などがありました。

年間計画として定期的な会議と学習会、資料作成、宣伝活動、組織体制作りを行い



ました。学習では目に見えている遺跡、施設や景色の学習だけではなく、テーマに沿ったご案内準備として、資料探し、学生による相互学習、歴史博物館や講演会、地域のシティガイドによる散策などに参加して1年間近く学習し、資料作成をしてきました。

事前・事後学習として専門家の先生の講演会は放送大学ならではの醍醐味があったと思います。参加者の知的満足度はかなり上昇しました。ウォーキングの会を始めてから5年間、若干の改善を要しましたが、80~100名の方が参加してくださり、楽しく学び、大成功を成し遂げたと思っています。

これまでの成功は20数名のリーダー達、サークルで応援して下さった方達、先生、学校側の協力のおかげです。ありがとうございました。今後は少し方法を変えて続けていこうと考えています。

コースは短いと思う参加者もいましたが、流れ解散でしたので、歩き足りない参加者へのご案内が不十分だったと思います。途中山道1時間30分の行程がありましたが、事故なく、最終地点まで歩けたのは、下見ウォーキングを何回も行い、入念な事前調査の結果であったと思います。

ほとんどが計画通りに運ぶ中で、組織体制作りは最後まで難航しました。運営会議・学習会へ参加メンバーは大方4・5人と少なく、役割分担が機能しない状況が生まれました。リーダーたちが一堂に集合できない状況にある中、ウォーキング当日21名の要員がそれぞれ役割を果たせるようにするため、個別対応やマニュアル作成に時間と手間を要しました。

名簿管理はフレーム作成によって比較的改善したが、120名程度の参加者入力と参加者への返信は複雑で手間と時間がかかりました。

この間、運営者が増えることを期待し活動してきましたが、100人規模のイベントを動かせる組織力に達しませんでした。K-サポート「ウォーキングの会」の名称で年間数人、入会されるのですが、各々事情を抱え、持てる力を発揮していますが、トータルで活動できる人は少ない。

これからは20~40人規模のイベントとし、会のメンバーの増加と充実を図り、地域の方でウォーキングの会と一緒に活動して下さる方を探したいと考えています。



証券投資と私

神奈川学習センター 客員教授 浅野 幸弘

昨年8月から客員教授を務めています浅野です。3月に横浜国立大学を定年退職してから暫くリフレッシュをしていたところにお話をいただき、また学生の皆さんと勉強がしたくなって、お引き受けしました。専門は証券投資といったところです。自分の専門を「といったところ」とは甚だ頼りない話ですが、それは、長い間、実務と研究の両面から証券投資に関わってきたものの成果はさっぱりだったという自戒があるためです。またその一方、専門、専門とどんどん細かく世知辛くなっていることへの反発もあります。重箱の隅を突つつくような専門家ではないという自負でも申しましょうか。とはいえ、私は、大学を出てから保険会社で15年余り、信託銀行で15年余り、合計30年以上も証券投資に関わる仕事をした後、大学でも12年間、関連の研究や教育に携わってきました。それなりの愛着があります。証券市場がきちっと機能し、投資家がそれなりに儲かってほしいという願望もあります。

私が社会人になった四十何年か前、証券投資といえば株式投資でしたが、その成果は悪くありませんでした。今から思うと、夢のように高いリターンでした。しかし、それは投資家が賢かったから、あるいは手法が優れていたからかという、決してそうではありません。ポートフォリオによる投資理論は海の彼方の絵空事、アナリストによる株式評価などもお呼びではありません。だいたいは株価チャートを睨んで、勘が頼りという投資でした。しかも、保険会社では投資といっても、大半がいわゆる政策投資で、本当の投資はほとんどありませんでした。株式は保険や融資の営業を支援するために購入する。私の仕事は、その交通整理と調査といったところでした。もっとも、調査といってもせいぜいチャートやPERなどの指標、そして業績をチェックして、割高でないことを確認するという程度でした。

それが大きく変わったのは1980年代、わが国経済が安定成長に入り企業の資金需要が減退した一方、証券市場の改革が進んで株式や債券による調達が増えたため、金融機関の融資が停滞したところです。保険会社や年金基金はそれまでの融

資中心の資金運用から証券投資に大きく舵を切ることになり、それに対応した科学的アプローチとしてポートフォリオ理論やそれに基づいた投資手法が導入されたのです。



私も信託銀行に移って、急いで理論の勉強をし、投資手法を研究したり、運用モデルを開発したりしました。しかしその結果はというと、バブルの膨張と破裂。株式投資は一時的には高いリターンをもたらしましたが、ほどなく損失に転じ、その後は長い低迷に陥りました。

この低迷を脱したのは21世紀も何年か経ってから。金融機関の不良債権処理が終わり、日本経済にも新しい展望が見え始めてのことでした。私はちょうど世紀に変わり目に学会に転じており、ようやく投資理論の出番が来たものと、研究に教育にと力が入ったものです。しかし、それも束の間、リーマンショックにより市場は再び大混乱。その原因たるや、証券化やデリバティブなどの金融技術がサブプライムローンなどを膨張させ、それが焦げ付いたこと。理論や市場の発展がまたまたバブルを膨らませ、破裂させたというわけです。

私は、わが国の証券市場の発展や投資理論の導入の過程に運よく立ち会うことができましたが、それを一言にまとめると、残念ながら、市場や理論が高度化するほど証券投資のリターンは低下した、と言わざるを得ません。自分のやってきた結果がこれだと思えば、虚しくなってしまいます。しかし、だからと言って、投資理論や市場にその責任があるわけではありません。それは、企業の業績とそれにふさわしい価格で投資することを前提に、リスクを分散したりヘッジしたりすること、またそうした投資が効率的に実行される場を提供したりします。問題はこの前提を忘れて投資し、やみ雲に高度化したことにあったのではないかと思っています。

「つまらないものですが」を英語で言うと

神奈川学習センター客員教授 田中 則仁

今から40年ほど前、東京の公立中学校に通う筆者は、アメリカ人中学生との交流会にどきどきしながら参加した。自己紹介が終わり、プレゼント交換になった。半日かけて選んで持参した小さなピンバッジを同年輩のアメリカ人少年に渡しながらはたと困った。「つまらないものですが、受け取って下さい。」は英語でどう言うのだろうか。こんな表現教科書で習っていないな。ほんの一瞬の事ではあったが、自分の気持ちを正確に表現できない強いもどかしさが残った。「英語ができるようになりたい。」と思い立った瞬間であった。筆者は中学の英語の先生に尋ねた。「先生、つまらないものですがどうぞって、英語で何というのでしょうか。」先生の返事は今でも覚えている。「I hope you like it.」「それでいいの、なぜ。」との筆者の問いに先生の返事は明確だった。「君が一所懸命選んだピンバッジなのでしょう。だったら、気に入ってもらえたら嬉しいという気持ちを素直に表現すれば良い。」その時おぼろげながら、相手の価値観を理解して適切に表現する事の重要性を感じた。

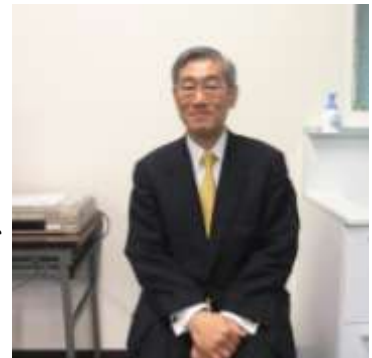
耳が良くて、恥知らず

典型的な日本人である筆者は日本語が国際語であつたらどんなに楽なことかと、常々思っている。でも現実には世界で10億人以上が英語を話し、英語を使って仕事をしている。しかもその過半数は母語が別にあつての英語である。こうなると発音や文法が多少おかしくとも、とにかく大声で言ったもの勝ちである。また耳が良くないと相手が何を言っているのか、

何に不満があつて怒っているのかも判らない。国際語としての英語を駆使するには改めて、耳が良くて、想像力をもって文法の間違いを補正し、恥じることなく大声で自説を主張するに限る。価値観の違いに寛容になる

自説を主張するというと、奥床し方々の響きを買いたいのだが、自分の考えをきちんと表明する事をもっと心掛けていきたい。阿吽の呼吸はもう日本でも死語になりつつある。

それでも必ず尊重しなければならないのは、相手の価値観である。国により、民族により、そして宗教により大切に守っているものは異なる。文明には進歩の度合いで差はあるが、文化には差はない。どの文化も同等である。異なった文化の中で育まれた価値観には常に謙虚であり、敬意をもって接したい。異文化間コミュニケーションの基本は、異なる文化への尊敬と寛容さである。自分の文化に自信と誇りを持つと同時に、初めて接する文化や習慣には特に優しくありたい。コミュニケーション力を高める事で、価値観の違いを超えた人と人との絆を確かめる事が国際人の役割であろう。



『田中 則仁 先生』ゼミ【国際経営を考える】

受講生 松岡 知昭

「国際経営を考える」と聞くと、どんな印象を持たれるでしょうか。「う〜ん、なんだか難しそう・・・」と思われる皆様もおられるでしょう。この難しそうな学問を、身近な例を通して判りやすく教えて下さるのが田中則仁先生です。

工業高校 機械科卒の私でも理解出来ます！

初めての講義では「あなたがラーメン屋さんを開業したとしたら」という例えで始まり、先生の講義に引き込まれていくうちに、それがいつしか企業のアジア展開へと発展していきます。

また、田中先生のゼミは講義を進めていく中で、必ず「このケースで、あなたはどのように行動するか？」を問い、出席者一人ひとりが考え、お互いに「なぜそう考えたか」を発表し合います。すると受講生同士、夫々の考え方を知り、自分の考えと比較出来ます。その後、先生の「私はこう考えた」というプリントと解説を頂きます。

その際先生は「これが正解です」とも、また決して受講生の発表を「違う」とも仰いません。

それは思いますに、第一回の講義に於いて『国際(経営)と国内(経営)の違いは価値観の違い。自分と違っても「ダメ」ではなく「協力」する事』との教えに通じているのだと思います。考えてみれば企業が海外進出した先で「日本流・我が社流に、このようにやれ！」では成果が生まれるはずもなく、互いの言葉や文化の違いをお互いに尊重しなければ成功するワケが無い。先生はその事を言葉だけでなく、ゼミを通して受講生に示されているのだと思います。

私自身、何ヶ国かの人々と共に仕事をしており、先生のゼミを受けて振り返ると「あの時こうすれば、もっとうまく出来たのに」と反省する事が一つや二つではありません。このゼミを通して、もっと2”うまく出来る”ようになりたいと思います。

「田中ゼミ」は途中参加歓迎！Welcomeです。皆様も「田中ゼミ」にぜひ御参加下さい。

面接授業「日本のことばの教育」

受講生 齋藤 藍



府川 源一郎 横浜国立大学教授

12月25日から26日 府川 源一郎 横浜国立大学教授による面接授業「日本のことばの教育」が開講されました。年末にかかわらず60名近い受講者があり、講義、グループワーク、発表とバラエティに富んだ構成で、受講生は、ことばの世界へ引き込まれてゆきました。〔編集部〕

「日本のことばの教育」は、先生が言う単語をひらがなで紙に書いていくことから始まりました。おかあさん、おにいさん、おどおり、おうぎ、とお。他五つで、計十個の単語が紙上に並びました。全員が書けたと見ると、直ぐに答え合わせ。そのまま流れるように、現代仮名遣いにおける長音の説明に入りました。

府川先生の授業は、こうした実施で興味をひき、関心を持たせたまま実施した目的を解説。独特なユーモアを混ぜながら、飽きさせないように楽しめるように本格的な話へと持っていく形態を取っていました。

実際にこの二日間の授業始めで実施したのは、はじめに書いたひらがな。『手製のおりに入っている』という詩にどう

いったタイトルをつけるか。文字を読んでいる相手の目の動きを確認。バラバラになった文章を組

み立てて、他のグ 詩の題名を書いた付箋を分類ループと比べてみる。詩の群読で個性を出す。途切れた物語の続きを書いてみる。といったものでした。小さい頃の凶鑑を捲るような、これはどういう意味なんだろう。こういうのもあるんだ。といったわくわく感。先生も、先生自身に注意していた生徒が眠ら



ない授業が、生徒をしっかり授業に参加させることで確かに行われていました。

その中でも、詩にどういったタイトルをつけるかは興味深いものでした。全生徒が付箋に書いて答え、その幾つかを先生が分類わけしながら紹介したのですが、動物系、食べ物系、抽象系、裁縫系、虫系と大きく分けても多種多様な答えが勢揃いしていました。

先生は、『折り弁当』や『偏見』といった幾つかを紹介する際に、今の学生では出てこない。と付け加えていました。『偏見』を出したのは筆者なのですが、こうしたリアクションが返ってくるというのは面接授業ならではの楽しさ。と、以前は当たり前だった授業風景を楽しめました。

また、先生のちょっとした話には、以前勤めていた小学校や今現在勤めている大学での授業風景も出てきました。同じことを小学校でやったら皆同じような回答になってし

まって、どうやって進行しようか困ってしまいました。そういった体験談も、雑談めいてはいるものの貴重で勉強になるものでした。

授業タイトルである「日本のことばと教育」。それをこの授業全体で学べ、とても充実した二日間でした。



文章を読んでいるときの目の動きを見る



バラバラにした文章を適切な順番に並び替える



群読の練習と発表

面接授業「臨床心理学ワーク」

受講生 片野 眞明

12月8日～9日、橋本 和幸 了徳寺大学助教による面接授業「臨床心理学ワーク」が、開講されました。

1日目は、主に面接の体験。わざと悪い聞き方をしたり、キャッチボールで言葉ではないコミュニケーションも体験しました。2日目は、いくつかの心理テストの体験。両日とも簡単な講義を聴き、体験して、グループで話し合っ、それをもとに、質問の時間と先生からの解説や講義がある授業でした。



橋本 和幸 了徳寺大学助教

カウンセリング経験に基づく話も豊富で、よりよいカウンセリングのために様々な手法を使うことなど、お話しされていました。

なお、一部の写真は、同一科目同一講師で行われた12月15日～16日の授業で撮影したものです。

〔編集部〕

この度、私は臨床心理学ワークの面接授業を受講しましたが受講に際し、この科目に対する予備知識などは何もなく、ただ単位を取得するという目的のみで受講しました。しかし実際に受講を行ってみて大変有意義な授業だったと感じています。

臨床心理学は人の「心」を扱う学問で、障害や不適応行動、悩みなどを解決する学問ということでした。この授業ではそのような人の心の問題を解決し援助するための理論と技法を学ぶというものでした。先ず講義で理論を学び、その後体験学習で面接や心理テストを行うという形式で行なわれました。面接法には相手



体験と次の体験をつなぐ説明



3～4人のグループを作る

と仲良くなる方法、悩んでいる人をねぎらう方法、そして相手に気づきを起こさせる方法などがあります。面接の体験学習では3人でグループを作り、2人で会話をし、1人がオブザーバーとなりそれを交代で進めていくというものでした。またこの3人のグループは組み替えを



3人グループで面接の体験



紙の球でキャッチボール

を行い、新たな3人グループを作り、大勢の人たちと接する機会を与えられるというものでした。心理テストでは芸術療法の「なぐり描き」や「実のなる木」を描くことを体験し、質問紙法の「エゴグラム」を体験しました。この授業を通して学んだことは、講義を通して臨床心理学の概要の一部を知ることができたこと、実践を通してカウンセラー、クライアントそれぞれの立場に立ち、各種手法を体験できたことでした。特に面接では初対面の大勢の人たち



なぐり書きをもとに絵を描く



実のなる木を描いてみる

と話しをする機会を得ることができました。そこでは良いコミュニケーションをとるための心得のようなものを学んだように思います。印象に残ったことは先生の講義の進め方でした。興味が起きるように、分かりやすく話され、多くの質問にも丁寧に答えて頂いたように思います。近い将来、自分自身の身近なところで、自分がカウンセラーに似た立場に立たざるを得なくなった場合のことなどを想定すると、大変有意義な受講だったように思います。

宮城学習センター

新炭焼き法の提案～震災瓦礫、再資源化への取り組み～

阿部 壽夫

1. 動機と震災

40年前、進学を意識しながらも、貧しいからと自分勝手な理由をつけ社員の道を、なんとなく選択した。

今にして思えば、親に対する恩着せがましい反抗心もなかったとは言えない。そのおかげで、進学出来なかったと言う逃げ道のため、責任のない自由な会社生活を送ってこられた気がする。一方ではまた、劣等感が沸き起こることもあり、努力しなかった自分を責め続けた事実もある。

研究動機は、学部での卒論論文の失敗である。中身の無い表面だけをつくらただけのコピーを残す結果となった。このことを先生に見透かされるのだが、云われるまでもない、何より自分が満足できない。怠惰な自分に鞭打つには、大学院で論文の完成がいいだろうと考え、時を同じにして、偶然にも「新炭焼き法」の発見できたことの幸いに恵まれ、この技術完成への思いが直接動機となった。

そんな時、3.11の震災が起きた。浸水した勤務先ビルに40日取り残され、自分を心配してくれた先生と仲間の存在、やっとながった携帯電話の会話は、一生忘れることはない。

環境は一変した。被災した仲間の家の土砂の排除や清掃作業、それぞれが、力の限り手伝いながら、自分のこととして限界に挑戦したのだ。これが宮城学習センターでの炭焼きGの活動であり、チームワークが現状打破の大きなエネルギーとなった。

本法原理の延長上ともいえる19㎡コンテナを使った規模拡大実験は、高橋先生の提案で行われ、19時間で窯止めを終了出来ると希望の発見を我々に授けてくれた。19㎡の木材ガレキは、従来窯の5倍以上で半端な量ではない。この成功は、我々の師とする先生と炭焼きGの結束力と底力の証明ともなった。

一方では、経験したことのない、震災対応の会社業務と研究両立の継続は体力勝負だった。このめげそうになる限界の環境での自分を、一緒に手伝い、できた成果を聞いてくれ、受け入れてくれる幸運な環境に恵まれた。それが家族・地域の協力のほか、この炭焼きGの存在と協力は欠くことはできない成功の要因である。

2. 炭焼き研究

2-1 新炭焼き法の原理

①従来の炭焼き法は前焚きと呼ばれる工程で、大

量の燃料を消費していたが、新炭焼き法ではこの燃料を必要としない。

②新炭焼き法では、木材の熱分解によって発生する可燃性ガスを積極的に利用して窯内の高温化を図る。結果として炭化時間(炭焼き時間)を大幅に短縮化し、高品位木炭の製造を可能とする。

2-2 実証試験

(1) 実用炭窯(内容積2400ℓ)での試験

表1実用窯での実績比較(竹炭製造)

年度	炭材 kg	出炭量		加熱温度 ℃	時間 hr	燃料 kg
		収率%	kg			
2009 (従来法)	264	24	64	299	29	278
2010 (新手法)	300	14	43	676	10	90

竹炭製造において、従来法と新炭焼き法での実験比較は表1になり、同一条件でありながら新炭焼き法は、炭化時間および燃料が、ともに3分の1で、生産効率が著しく向上した。

これは窯内温度(最高温度676℃)が従来法より高くなったためである。ここでは収率14%の高品位木炭が作成されている。出炭量は従来法が高くなっているが、未炭化の炭が多かったため計量値が大きくなったためである。

(2) 原理に関わる実証実験

新炭焼き法の炭化のための熱源は、有機物の熱分解によって発生する可燃性ガスの燃焼熱であることを実証実験によって確かめた。

新炭焼き法は前焚きをすることなく、空気を直接窯内に導入する。木材の炭化は外周部より内部に向かって進行する。なぜ木材外周部は燃えないのか。実証試験はこの点を証明する。

①可燃性ガス発生の実証実験



図1 実験概要図

図1は測定系統図を示す。

電気炉による加熱実験は、試料に太さ約7cmのクヌギ原木を長さ25cmに切断し温度と圧力センサーを設置する。試料を500℃まで昇温加熱して、クヌギの表面・中間(15mm)・中心(30mm)の温度・圧力の時間経過を直接測定して炭化とガス発生を確認した。温度は外径1mmφのCAシース熱電対、圧力は内径0.60mmφのステンレス管をセンサーとしてマンメーターで測定した。

②自然通風による電気炉での炭化実験結果

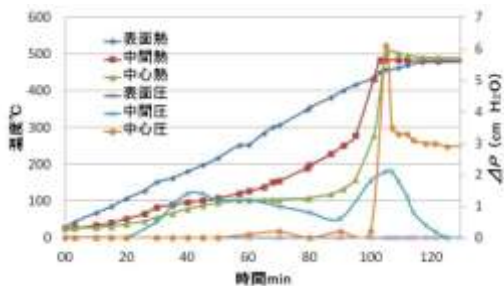


図2 自然通風による電気炉での炭化実験結果

温度と圧力の上昇は、表面から中心部に向かい進展している。温度について、表面は、窯内制御温度と同様な推移を示すが、中間部はそれより遅れ、さらに中心部が遅れるが、最終的に一挙に測定温度が500℃で一致して炭化が終了している。

圧力は、表面に変化がなく、中間部が先に上昇し、中心部がそれに続き推移している。炭化の最終段階で急速に上昇した。これはこの部分で熱分解が起こり可燃性ガスを発生したことを表わしている。

試料のクヌギ炭材内部からは、中間部・中心部の順番で圧力が上昇した。これは熱分解によって可燃性ガスが発生したためであり、これは木材表面に向かって移動する。したがって、このガスが優先的に燃焼すると考えられるので、木材内部で分解ガスが発生している間、生成した炭は燃えることはない。

2-3 結論

前焚きを必要とせず短時間で高品位の木炭を製造する新炭焼き技術を開発した、新炭焼き技術の原理は実証試験結果によって確認された。

3. 実用化の道筋と復興への貢献

本炭焼き法は、宮城学習センターでの高橋礼二郎教授の指導する課外授業をきっかけとして、その仲間の協力のもとで、偶然が重なり発見でき

た手法である。20ℓ割箸炭つくりに始まり19,000ℓ(19m³)コンテナ窯まで、立証実験に成功している。大量に安全な炭焼きができる可能性を示唆している。



図3 20ℓ窯・19000ℓ(19m³)コンテナ窯の写真

このことは、原子力発電で5千万kW分の不足する発電用燃料を必要とする。これは1億トンの新たな石炭調達必要性を意味するが、本炭焼きにより、国内での森林資源でも満足できる可能性を示している。森を再生する計画的伐採により、炭焼きにより燃料を得ながら発電と熱供給を行う。CO₂の固定は同時に達成できることに加え、地域環境改善確保の職場と産業確保も可能だろう。

震災瓦礫を焼却処分する場合は、選別移動が必要であるので、その行程に、本手法の炭焼き行程を加えることは、技術的に何も問題がない。コストもかからない。CO₂の削減もできるが、現地での実現の見通しには立てなかった。

それでも実現しないのには、複雑な要因があるのだろう。燃料としては当然に、土壌改良の効果も、水質環境浄化・放射線の除染材料効果もあるのに2千万tの貴重な資源を、焼却発電もしないで、コストをかけCO₂として排出しているのである。

当面、被災地でも本炭焼きを分かっていた日があることを念じ更なる精進を続ける以外に私の道はない。



図4 200ℓ窯と仕上りの写真

放送大学神奈川学習センターと県央8市との公開学習会

K-サポート事務局

垣谷 江里子

11月17日(土)大和市渋谷学習センター多目的ホールにおいて第5回 放送大学神奈川学習センターと県央8市との公開学習会が『県と市民が協働で作る安全・安心～市民グループの取り組み事例発表～』をテーマに開催され、128名が参加しました。

これは放送大学神奈川学習センターが主催。厚木市・大和市・海老名市、相模原市・秦野市・伊勢原市・座間市・綾瀬市の各教育委員会が共催し、地域の課題への取り組みや生涯学習について放送大学神奈川学習センターと県央8市が協働で行う公開学習会です。

当日はまず、第Ⅰ部のアトラクションとして、大和市の高座渋谷よさこい「夢恋連」の35名の



皆さんによる華やかでエネルギーあふれる演舞により開会しました。

続いて、第Ⅱ部では、濱田嘉昭神奈川

学習センター長の挨拶に続き、黒岩祐治神奈川県知事から「神奈川県の防災対策とコミュニティ」の基調講演があり、行政と市民の連携が必要不可欠であるとのお話をいただきました。



第Ⅲ部では、4つの市民グループから発表がありました。黒岩祐治知事初めに厚木市の「あつぎ災害ボランティアネットワーク」の代表土橋芳江さんから『“いのち”こそ宝 できていますか地震への備え』、二番目に大和市の「深見中原自治会」の代表望月則男さんから『うごく自治会、ひろがる自治会』、三番目に伊勢原市の「千津南自治会」の代表島野久さんから「地域における自主防災の取

組み」、最後に座間市の「ざま災害ボランティアネットワーク」の代表濱田政宏さんから『生き残らなければ何も始まらない』が紹介され、引き続き行われた質疑応答でも活発なやり取りがありました。



また、この学習会はスタッフとして、学習センターの教職員の他にK-サポートの機関誌編集チームのメンバーを中心とした多くの方の協力を得て実施されました。メンバーの役割は、会場設営、配布資料のセット、展示資料の設置、開会前からの受付での来訪者への対応や控室への誘導、知事の講演や市民グループの発表後の質疑応答での質問者へのマイクわたしなど多岐にわたりました。

この学習会については、11月26日～12月2日に、放送大学の情報番組(TV)「大学の窓」の中で紹介されました。番組では「地域と一緒に学ぶ」というテーマでこの学習会以外に、神奈川学習センターK-サポートの地域連携チームのウォーキングの会によるウォーキング(11月3日実施)、県内自治体主催講演会への放送大教授陣の派遣、自治体シニアセミナーへの学習センター所長と放送大卒業生の参加についての話題も取り上げられています。



※放送期間は終了しましたが、この放送は、
<http://www.ouj.ac.jp/hp/eizou/mado/>
 にて、ご覧いただけます。

AAOUボランティアに参加して

うえるかむKanagawa 山本 一彦

10月16日～18日、幕張メッセで開催された第26回アジア公開大学連合(AAOU)年次大会にボランティアとして参加しました。放送大学(OU)学生のボランティアは「うえるかむKanagawa」から7名、他センターから3名。

活動内容は空港での参加者出迎え、会場における誘導・受付補助、会議室内補助など。会議には言語も宗教も異なるアジア各国から約180名が参加しました。これまでは同様の会議に参加者の立場でしか見ることはありませんでしたが、今回は裏方としての目で会議を見ることができました。いつも何気なく見ていたクローカーや受付、誘導、そしてマイクランナーとしての補助などを、今回は新鮮な緊張感を持って担当させてもら



いました。

担当したパラレルセッションの一つでは、インドのような大人口を抱える途上国で、数百万人という学生に如何にして万遍無くレクチャー情報を伝え、各学生の学習成果を吸い上げて評価するべきか活発に討議されていました。学生数6万5千人のOUJに比べるとその大変さを伺い知ることができます。

今回のボランティア参加での最大の収穫は人の輪が広がっていくのを実感できたことです。他センターの方々との交流の輪ができ、その輪が更に別の次元の輪へと波紋のように広がって行く。今後も機会あるごとにボランティアに参加したいものです。



【新任教員紹介】

放送大学神奈川学習センターに平成24年8月1日付け採用になりました。どうぞよろしくお願いいいたします。

新任教員	
客員教授	浅野 幸弘
客員教授	初川 満
客員教授	田中 則仁

【新任職員紹介】

放送大学神奈川学習センターに平成24年10月1日付け採用になりました。どうぞよろしくお願いいいたします。

新任事務職員	
教務係員	笹生 一夫

【退任】

放送大学神奈川学習センターに平成24年9月30日付け退任されました。

退任職員	
教務係員	佐藤 結香



中世の図書館史から情報伝達について思うこと

横山 深雪

12世紀後半から16世紀後半までの鎌倉・南北朝・室町時代を中世と呼びますが、この時代の文庫としては三善康信の名越文庫、金沢文庫、足利学校の文庫、長井宗秀の長井文庫、二階堂行藤の二階堂文庫などが有名です。

金沢文庫は、北条実時によって設けられた武家文庫で、設立年代は宝治元年(1247)から建治3年(1277)までの間に建てられたものと思われます。当時、鎌倉幕府の初代問注所執事であった三善康信(善信)の名越文庫が鎌倉の名越に造られていました。初代問注所執事とは、今日風に言えば最高裁判所長官のことで、法律家の貴重な公文記録書が文庫には所蔵されていました。学問熱心な実時は、金沢文庫が造られる際に、名越文庫を見習ったのだという話もあります。しかし『吾妻鏡』によると名越文庫は承元2(1208)年1月16日丑の刻に焼失してしまったそうです。当時、名越氏の所有であった土地は、文庫と寺院が併設される構成をしていましたが、現在、名越付近に残っているのは法性寺のみです。政治、法制、軍事、文学などが文庫の基をなしていました。文庫の利用は、利用規定があり個人文庫としての色合いが強く、関係者、僧侶の利用に限定されたものでした。兼好法師が逗留し、図書を利用したとも言われています。それらの図書には、蔵書印が押されていたようです。



北条氏が滅亡すると、文庫の管理は称名寺に委ねられましたが、管理が手薄になり、次第に書物が散逸し、前田松雲や徳川光圀の手にも渡り、称名寺には仏書関係のみが残りました。

現代に残る日本最古の学校と言われている足利学校は、創立年、創立者とも異説があり不明ではありますが関東下野国に造られ、上杉憲実が鎌倉円覚寺の快元を座主(学長)に迎え再建しました。教育方針は儒学中心で、易学、兵学にも力を入れました。天文19年(1550)、ザビエルは「日本国中最も大にして、最も有名な坂東の大学」とイエズス会の手紙に書き、世界に紹介したそうです。

足利学校の文庫は、武人から寄進された図書により、儒学関係、易学の典籍は豊富でした。図書利用については、貸し出し禁止、閲覧は1冊限定、書き込み・切り抜きの禁止、季節毎に本の手入れをしていたそうです。

戦国時代が過ぎると、江戸幕府に維持されてきま

したが、時代とともに管理が手薄になり多くの図書が散逸し明治5年に幕をおろしましたが、しかし、明治36年足利学校遺跡図書館として発足し、その後昭和57年に「史跡足利学校跡保存整備事業」により、平成2年に江戸中期の姿に蘇りました。貴重書には、宋代の漢籍のほか、元、明、朝鮮本や我が国の古写本など、国宝に宋刊本の「文選」「礼記」「尚書」「周易」の4種77冊、重要文化財に8種98冊があります。

改めて中世の図書館史を振り返りますと、「情報」がいかにもたらされてきたのか、また今後もいかにもたらされるべきなのかということについて深く考えさせられます。また、私は現在、鎌倉の名越付近に住んでいるので、名越文庫が金沢文庫に先立つものであったにも関わらず火事で焼失してしまったという歴史に、強い関心を持ちます。名越坂手前の片隅に佇む「法性寺」とかかれた石塔をみると、道標も残らずに消えてしまった名越文庫がどの辺りにあったのだろうか、つい想像してみたくなるのです。

大きな災害後の日本にとって、いつ非常事態が起こりうるかわからないというのが常識ではありますが、図書館がなくなった場合、書物がきえた場合、インターネットが使えない場合など、情報伝達については、便利な世の中になったとは言え、まだ、未来にどの程度どこまで残せるのかわからないということを改めて考えさせられます。例えば、『100,000年後の安全』という映画では、大量の高レベル放射性廃棄物が暫定的な集積所に蓄えられていますが、そこへの立ち入り禁止の標識が、いつまで解読され続けるだろうか……ということもわからないと専門家たちは懸念しています。情報と情報伝達について考えることは、私たちが過去から今と未来を考えることでもあるのではないかと思います。

※この文章は、広報「かまくら」平成24年度7月15日号5面のまちのスケッチに掲載された「名越の片隅に佇む小さな石塔」についての文章に加筆したものです。

参考文献等

小野則秋『日本文庫史研究』上巻 上代・中世編 臨川書店 1988年 p.569

安藤勝『図書・図書館史』近畿大学 2012年 p25,p28

安藤勝『図書・図書館史』近畿大学 2012年 p28に引用されている五味文彦、本郷和人編『現代語訳吾妻鏡』吉川弘文館 2009年からの引用文を以下サイトから確認『吾妻鏡』

<http://www.5a.biglobe.ne.jp/~micro-8/toshio/azuma/120801.html>

「鎌倉周辺部における主な別業」p32 関靖による文庫と寺院とが併設されている別業について

tdl.libra.titech.ac.jp/z3950/gakui/pdf/1627586/162758606.PDF

K-サポートからのお知らせ

○2012年度K-サポート活動発表会

年度末のK-サポートの活動発表会が、3月10日(日)13時から学習センターの第3講義室で開催されます。

①学習相談、②機関紙編集、③地域連携、④バス研修・行事サポートの4つのチームのサポーターメンバーから活動の報告があり、教職員から助言をいただいで来年度の計画を検討し発表します。

一般の学生さんも傍聴いただけますので、活動にご関心のある方はお運びください。

お問い合わせは、ksupport@ouj.ac.jp にメールでお願いいたします。(事務局 垣谷)

○学習相談チーム

K-サポートの学習相談、2013年度第1学期は、**4月20日から6月23日までの土曜日と日曜日、午後1時から午後3時50分の間、2階、談話室の相談コーナー**で行います。予約は不要です。

放送大学での学習に関して困っている点に限らせていただきますが、まずは気軽に何でも相談にきてください。

また、6月上旬に提出する「通信指導」についても、助言や指導いたします。

編集後記

異例のことですが、8ページは、濱田所長の紹介で宮城学習センターの阿部壽夫さんに、ご寄稿いただきました。編集中のやりとりの中で、多くは語られない方と見受けましたので、行間から震災に対する東北の人の思いを感じていただければと思います。

面接授業記事は、府川先生、橋本先生と受講生のみなさんのご協力で開催できました。興味深くも楽しい授業、読者のみなさまにその雰囲気的一端でもお伝えできればと思います。両先生、感想文をご寄稿いただいた齋藤藍さん、片野眞明さんをはじめ関係者のみなさまにお礼申し上げます。

11ページの教職員異同記事は、あきだよりに掲載すべき記事でしたが、掲載スペース等の関係で今号となりました。お詫び申し上げます。

正式依頼から1日で記事を寄せていただいた横山深雪さん、学習センターまでカット絵を届けて頂いたよーこさん、寄稿・協力いただいたみなさま、読者・関係者のみなさまに感謝いたします。(H)

研究発表会等のご案内

○文化人類学・生物学特別セッション～『性』は『生』-文化人類学・生物学から『性』を考える～

・13:00～「キピユイチョック:イヌイトの第三性--北米先住民の性別とジェンダーをめぐって--」
講演:本多俊和(スチュアート ヘンリ)客員教授
・15:10～「生物学の難問『性』」
講演:星元紀客員教授

日時:2013年3月9日(土)13時～17時10分(予定)
会場:神奈川学習センター 2階第3講義室
定員:70名(先着順:申込不要)
※講演会聴講無料

主催:放送大学生命環境科学研究会
(星・松本・二河系ゼミOBOG有志)
後援:放送大学文化人類学本多研究室
株式会社キーストンテクノロジー

問合せ:lifenvouj@livedoor.com
Tel:045-222-3117/ Fax:045-222-3118
(Tel/Fax代理受付:株式会社キーストンテクノロジー)

サークル合同発表会のご案内

日時:平成25年3月10日(日) 10:00～16:00
場所:神奈川学習センター 第8・9講義室(太極拳)
第7講義室 (アツギバソ・歌声喫茶)

第1部:太極拳をやってみよう(1000～1200)

太極拳の話、「簡化二十四式太極拳」の演技、
剣舞表演 など
講師:澤村 雅嗣(放友会)
伊 秀蘭(同窓会)
岡本 興和(中国語学会)



第2部:神奈川同窓会「社会貢献活動」講演会(1300～1400)

フォスタープラン報告
演題:『自立を目指して
～プラン・バキスタン～』
講師:安野 麻衣(やすのまい)
(プラン・ジャパン)



第3部:歌声喫茶(1415～1600)

神奈川合唱団とみんなで歌いましょう
ドリンクサービスがあります。



曲名:「花は咲く」、「東北は春よ来い」、「浜辺の歌」、「高校三年生」、「いい日旅立ち」、「いつでも夢を」、「雲の街い出」、「翼をください」、「故郷」、「望郷のうた」、「望の秋」・・・etc

入場無料 事前申し込み不要(直接会場にお越し下さい)

主催:神奈川サークル協議会

神奈川放友会、人間学研究会、つるむのkarasawa、中国語学会、貴族教育研究会、
韓国語同好会、かながわレク・サークル、ダンスサークル、神奈川合唱団、神奈川同窓会
お問い合わせは、神奈川サークル協議会 木下 義博 (045-491-9111) まで。

学生サークルからのお知らせ

○神奈川放友会

情報交換を兼ねた食事会

10月14日、10月の月例会を大岡センター会議室で開催しました。

放友会では年2回(6月、10月)、新しく新会員を迎えた後の月例会を『学習に関する情報交換会』として実施しており、前回(6月)に引き続き食事会を兼ねて開催しました。

下期入会の新会員全員の参加の下、科目に関するアドバイスや資格取得に関する質問など活発な意見交換会でした。

放友会についてのお問合せ

info@kanagawa-hoyukai.jp 事務局長 高橋照夫

○韓国語同好会

★月例会 毎月第1、第3土曜日(変更もあり)

場所:神奈川学習センター(当日入口のボードで案内) 見学自由です。

時間:10:00~15:00 初級、中級クラス別学習・ミーティング・自主学习

講師;金 蘭美(キム ランミ)先生

初級、中級ハングル学習(テキスト使用)

★韓国の歴史、文化、生活など時勢の話題も身近に学べます。

★韓国を知ってご一緒に韓国旅行に行きませんか!

★ホームページ <http://www.hangugo-club.org>

問い合わせ 村田(090-5797-9418)

○放大かながわレク・サークル

★パソコン部:個人のニーズに応じた学習。

学習日時:第2、第4木曜日 13時30分~15時30分。

場所:神奈川学習センター 実習室:申込制

★ウォーキング部:2ヶ月に1回、「東海道五十三次」実施中。名所旧跡文化 施設等も対象

★その他観劇、観光、映画、美術鑑賞等。

上記の各種活動はいずれも自由参加。

—会員募集中(随時申込・受付)—

問合せ:島田 義治 Tel 090-3907-8384

E-mail simada.yosiharu@coral.plala.or.jp

○人間学研究会

1. 例会

・2月16日(土) 第8講義室

「あるおじさんのメニュー」

・3月10日(日) 会場未定(会員限定)

各日とも午後1時より開催

問い合わせ 安田武夫

Tel 045-775-0879

2. 歩きましょう

(現在ウォーキング企画を調整しています。近期中にリニューアルした企画をお知らせします。)

○中国語学習会

☆学習日:第一、第三日曜日

☆学習時間:10時~12時 中級(告旭平老師)

13時~15時 初級(楊雪老師)

我が国の文化、言語などに影響を与えた国、近くて少し距離感のある国、難しいことはさておき純粋に中国語と会員間の親睦のイベントなどを楽しんでいる会です。

学習日にぜひ見学にいらしてください。

☆連絡:万場(まんば)由美子

(046-293-5521)

○うえるかむKanagawa

英会話、英語学習、小さな国際交流、海外旅行等英語に夢を持っている人が集まり楽しく学んでいます。

☆例会は毎月第2、第4水曜日(変更もあり)。

午前中はニューヨーク出身のChris先生より

英会話レッスン。午後はEnglish songsと

Group study。午前、午後とも自分に合う

グループを選べます。

☆うえるかむ名画座、ゲスト講演会、懇親会、その他色々な企画があります。

☆活動の様子は下記のHPでご覧下さい。

<http://welcome-kanagawa.jimdo.com/>

☆見学大歓迎

問合せ:星 090-4054-8282

reikosunflower@yahoo.co.jp

○ダンスサークル（社交ダンス）

レッスン日 毎月第2火曜日と第4火曜日
 時間 午後2時～4時
 費用 年会費 入会時に1000円（以後毎年1000円）
 レッスン料 月1500円
 場所 第7講義室
 その他 全科履修生は体育実技(1単位)を取得できます。
 レベルの高いステップではなく基本的なステップの組合せで楽しく踊る！を目標に練習に励んでいます。ダンスを始めてみましょう!! きっと新しい世界が開けますよ！
 お問い合わせ 放送大学ダンスサークル 宮川
 Tel.045-933-9753

○神奈川合唱団

楽しく一緒に唱いましょう。
 昨年、学位記授与式にNHKホールにて学歌を唱いました。発声法に特に力を入れた指導を受けています。また“歌声喫茶”を設け仲間との親睦を深めています。気軽に見学においで下さい。
 場所 大岡地区センター(神奈川学習センターの向い側)
 第1、第3水曜日 午後6時～8時30分
 連絡先 家田 0466-34-7545
 赤松 044-288-0655

○資格取得研究会

看護・福祉分野を中心にキャリアアップや進学・就職を目指す集まりです。現在、大学卒を目指す看護師の方、看護師国家試験を受ける方、医療関係、福祉関係のキャリアアップや認定心理士を取られる方などで構成されています。内容は例会(情報交換)と講演会の聴講、見学会など。
 これからの例会予定
 ・2月17日(日)10:00 第4講義室
 ・3月17日(日)10:00 (学外開催の場合あり)
 ・4月7日(日)13:00 会場未定
 会費: ¥500(1年間)
 ホームページ…<http://shikaku.yumesora.net>
 お問い合わせ…080-5546-7913(はこざき)

神奈川同窓会だより

皆さん、単位認定試験への準備はいかがですか。

今学期卒業をめざしていらっしゃる方も多いと思います。卒業式はNHKホールですね。

同窓会連合会は式典のあとの祝賀パーティーの実行をします。NHKからホテルの会場までの案内や会場係などでお待ち致しております。

どうぞ、頑張ってください。

講演会・映画鑑賞会のお知らせ
 日時：2013年3月3日(日) 10:00～15:30
 場所：放送大学神奈川学習センター 第8講義室

講演会	映画鑑賞会
<p>10:00～12:00</p> <p>議題： 数学と工学の接点 「ファジイ理論入門」</p> <p>講師： 影井清一郎 神奈川学習センター客員教授</p> <p>●講演概要 不確実なものを取り扱う数学理論の一つにファジイ理論があります。確率論では、起きる割合は決まっていますが、実際に起きるかどうかは分からない事柄を扱っています。これに対して、ファジイ理論では境界の曖昧さを扱います。ひとりのブームが終わって、ファジイ理論はようやく定着して来たと言えます。ここでは歴史を知るといった観点からファジイ理論を紹介いたします。中学校で習う集合と関数をもとに、数学的な場面にも注目しながら、ファジイ理論における基本的な考え方をお話ししたいと思います。</p> <p>●講師プロフィール 1969年 横浜国立大学工学部(電気工学)卒業、同年同大学助手。現在、同大学名誉教授、放送大学神奈川学習センター客員教授、放送大学客員、医用画像処理の研究に従事、工学博士。 趣味：山中鹿</p> <p>主催：神奈川サークル協議会</p>	<p>13:00～15:30</p> <p>わが母の記</p> <p>井上靖の自伝的小説「わが母の記」3部作(講談社文芸文庫)を、「クワイマーズ・ハイ」の原田真人監督が映画化。笠原弘子、樹木希林、宮崎あおいら實力派キャストで10年間にわたる戦時、家族の姿を描く。昭和39年、小銃隊の伊上真作は、父が亡くなり母・八重の自衛を見ることになる。幼少期に母と離れて暮らしていたため距離を置いていた真作だったが、妻や母の死、誹らに苦しむ、自身の幼いころの記憶と八重の思い出を交わらうことに、八重は薄れゆく記憶の中で息子への愛を確かめ、真作はそんな母を逐次、次第に受け入れられるようになっていく。第35回モントリオール世界映画祭ワールド・コンペティション部門で審査員特別グランプリを受賞。</p> <p>主催：放送大学神奈川同窓会</p>

入場無料、事前申し込み不要(応接会場にお越し下さい)
 主催：神奈川サークル協議会/放送大学神奈川同窓会(共催)
 後援：放送大学神奈川学習センター
 お問い合わせは、045-491-9111(木下)まで

OUJ神奈川学習センターだより編集部

赤松、家田、入江、遠田、笠井、吉川、木下、宮崎、三國、和田
 (50音順、以上、K-サポート機関紙編集チーム)
 垣谷(K-サポート事務局)
 石塚(学習センター事務局)
 カット絵は、よーこさんの作品です。

学習センターからのお知らせ

◆ 学生募集について ◆

平成25年度第1学期入学(4月入学)の教養学部生、大学院修士選科・科目生の学生募集を行っています。

願書受付期間:平成24年12月1日(土)～平成25年2月28日(木)

学ぶ喜びをより多くの方々に知っていただきたいと思い皆様のご家族・ご友人・知人に放送大学の魅力や利用方法をご紹介下さるようお願いいたします。

参考:放送大学にも編入学制度があるのはご存知でしたか?

◎短大を卒業された方・・・3年次に編入できます。

◎S51年以降の専修学校専門課程を卒業された方・・・3年次に編入できます。

(詳細は学生募集要項を参照してください。)

◎大学を1年以上在学して中退された方・・・2年次または3年次に編入できます。

◆ 科目登録申請について ◆

平成25年度第1学期の科目登録申請は下記のとおりです。登録を忘れないようご注意ください!!

申請期間:平成25年2月12日(火)～平成25年2月28日(木)【郵送】[本部必着]

平成25年2月12日(火)～平成25年3月1日(金)18時【Web】

対象学生:平成25年度第1学期に引続き学籍がある方

注意事項:◎在学生の次学期の科目登録

(放送授業及び面接授業)申請です。

入学(出願)手続きとは申請期間が異なります。

◎インターネットでの科目登録も可能です。詳細は、「科目登録申請要項」をご確認ください。

◆ 特別聴講学生募集について ◆

放送大学(神奈川学習センター)では、**横浜国立大学**が放送大学と相互に単位を互換する協定を結び、双方向による単位互換を実施します。

これにより、放送大学の学生(全科履修生)は、単位互換協定を締結している**横浜国立大学**の授業科目を履修することができ、修得した単位は、放送大学の単位として認定されます。

平成25年度第1学期の募集については平成25年2月以降に神奈川学習センター掲示版・ホームページで周知いたします。

1. 出願資格 ①全科履修生

②本学の在学年度が1年以上の者

③放送授業科目において30単位以上を修得した者
(出願先「横浜国立大学」へ通学が可能である者。)

2. 出願のための履修相談先:神奈川学習センター事務室窓口

